

# 「ツマジロクサヨトウ」に注意 飼料用とうもろこしに発生中！

「ツマジロクサヨトウ」は、南北アメリカで発生以降、アフリカ、アジアへと発生範囲が拡大しています。

日本では本年7月に、鹿児島県で初めて発生が確認され、8月には高知県でもトウモロコシやイネにツマジロクサヨトウの幼虫が確認されました。

自給飼料の被害の拡大による畜産経営への影響が懸念されています。

## ツマジロクサヨトウの特徴

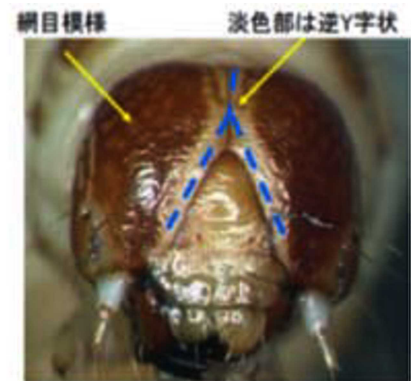
幼虫が、飼料用とうもろこしやイネ等の葉、茎、子実を食害します。



幼虫が葉、茎、子実を食害



- 気流に乗って長距離移動する
- 1回の産卵数は150~200個
- 生涯産卵数は最大1,000個



- 幼虫の頭部に網目模様  
淡色部は「逆Y字」状
- 幼虫は1.7~40mm

※ 飼料用とうもろこしや農作物に発生していないか確認し、疑わしい害虫を発見した場合は、速やかに問合せ先までご連絡ください。

○問合せ先 畜産振興課

電話：088-621-2418 ファクシミリ：088-621-2857

